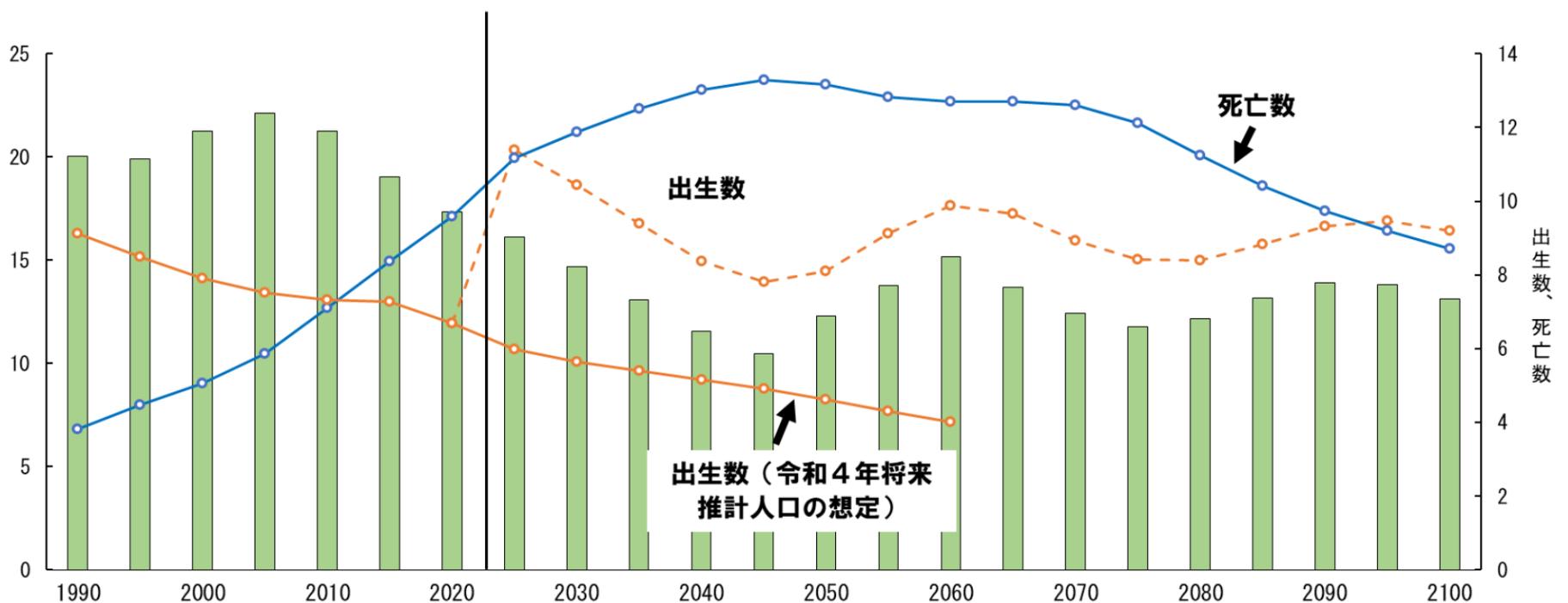


65歳以上の高齢者人口は増加を続け、2040年代にピークを迎える見込み
 生産年齢人口は今後更に減少し、2040年代に100万人を割る見込み

人口モメンタムについて

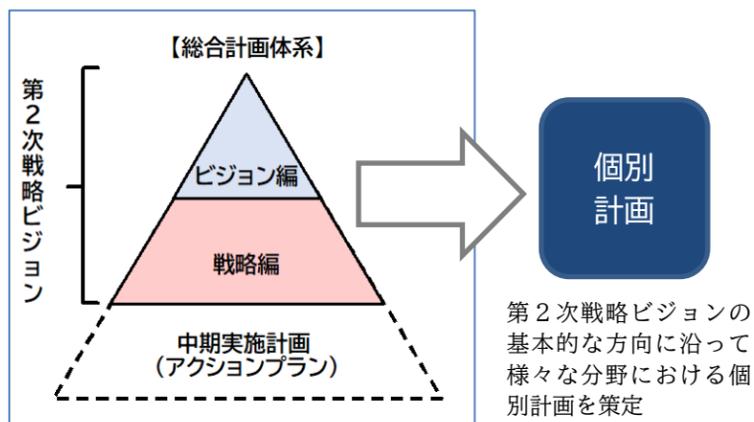
出生率が人口置換水準(2.07)となった場合の将来見通し(イメージ図)



出生率が上昇しても、母親世代の減少は2045年頃まで続き、その間出生数も減少する
 人口減少が止まるのは2090年頃で、人口は157万人前後で安定する

「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」

- 札幌市自治基本条例第17条の規定に基づき策定
- 最上位に位置付けられる幅広い分野にわたる総合計画
- 計画期間は令和4年度（2022年度）から令和13年度（2031年度）までの10年間



ビジョン編 (議決事項)	・目指すべき都市像 ・目指すべき都市像の実現に向けたまちづくりの基本目標 (政策の基本的な方向性)
戦略編	・まちづくりの基本目標の達成に向けて札幌市(行政)が取り組む手法(施策)
中期実施計画	・第2次戦略ビジョンに基づいて札幌市(行政)が行う事業

○分野横断的に取り組む施策

分野横断的に取り組む施策(プロジェクト)の設定の考え方

- ビジョン編では、札幌市の現在と将来に関する考察のまとめとして、今後は人口減少の緩和を進めることはもとより、人口構造を始めとする様々な変化に大きな影響を受けず、その変化を積極的に生かし持続的に成長していくことが必要になると整理し、「目指すべき都市像」を設定しました。
- また、この都市像の実現に向けてまちづくりを進めていく上での重要な概念である「まちづくりの重要概念」として、「ユニバーサル(共生)」・「ウェルネス(健康)」・「スマート(快適・先端)」を定めました。
- 今後札幌市がまちづくりを進めていくに当たっては、より複雑化した課題が顕在化することも見込まれることから、こうした課題に対しては個別の「まちづくりの分野」における取組にとどまらず、より一層「分野横断的」に立ち向かい、戦略的にまちづくりを進めていくことが求められます。
- そこで、戦略編では、3つの「まちづくりの重要概念」を踏まえ、分野をまたがる課題を整理し、分野横断的に取り組む施策として、人口構造を始めとする様々な変化に大きな影響を受けず、その変化を積極的に生かし持続的に成長していくために取り組む4つのプロジェクトと、人口減少の緩和を進めていくために取り組むプロジェクトの計5つのプロジェクトを設定します。

目指すべき都市像

「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなす輝きが、豊かな暮らしと新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろ

札幌市の現在と将来に関する考察のまとめ

人口減少の緩和を進めることはもとより、人口構造を始めとする様々な変化に大きな影響を受けず、その変化を積極的に生かし持続的に成長することが必要

対応する施策

分野横断的に取り組む施策(プロジェクト)の設定

ユニバーサル(共生)プロジェクト

ウェルネス(健康)プロジェクト

スマート(快適・先端)プロジェクト1
プロジェクト2

人口減少緩和プロジェクト

- 参考：まちづくりの重要概念
- ★ユニバーサル(共生)
誰もが互いにその個性や能力を認め合い、多様性が強みとなる社会の実現
 - ★ウェルネス(健康)
誰もが生涯健康で、学び、自分らしく活躍できる社会の実現
 - ★スマート(快適・先端)
誰もが先端技術などにより快適に暮らし、新たな価値の創出に挑戦できる社会の実現

人口減少緩和プロジェクトについて

- 今後は、人口減少の緩和に向けて、大学等の研究機関の集積という強みを生かし、若者との接点を持つ大学に着目して札幌圏の各大学との連携を強化していくことや、将来的な地元定着などに向けた長期的な視点を踏まえた取組を進めていくことが必要です。
- そのため、これまで取り組んできた、豊かで安定した暮らしに資する「質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり」や「結婚・出産・子育てを支える環境づくり」について、札幌市の合計特殊出生率などに影響を与える要因や国内外の事例も調査分析しながら有効な事業を展開するとともに、より若い世代へ向けたアプローチを強化します。

人口減少緩和プロジェクト
結婚や出産を望む市民の希望を実現するとともに、住み続けたいとなる取組の推進

①質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり

- 高度人材の雇用の受け皿となるスタートアップへの支援や成長分野の企業誘致や本社機能の移転に対する支援の強化 など

②結婚・出産・子育てを支える環境づくり

- 個人の自己決定権を尊重しつつ、結婚・出産・子育ての不安を緩和する支援や保育サービスを充実
- 子育て世帯などの家計負担の軽減を拡充

③若い世代へ向けたアプローチの強化

- 大学との連携による戦略的なまちづくりの加速化
- 大学間の連携強化に向けた支援や大学・企業・地域コミュニティの活性化
- 大学生以外の若い世代(専門学生、中高生など)への、ライフデザインに関する意識向上 など

プロジェクトの推進による10年後の札幌市

- 高度人材などの雇用の受け皿となる企業が成長しています。
- 職場・家庭などにおいてジェンダー平等が実現しています。
- 観光・スポーツ・文化芸術などの面で、札幌市の魅力が一層高まっています。
- 結婚・出産・子育ての不安を緩和する支援や保育サービス、家計負担の軽減に向けた支援が充実し、結婚、出産や子育てに関する市民の希望が実現しています。
- 子育てをする市民が子育てを楽しみながら生き生きと暮らしています。
- 若者がより一層札幌市の魅力・特色を感じています。
- 若者が心や体の健康を正しく理解し、自分らしいライフデザインが描ける環境が整っています。



成果指標

指標	現状値	目標値
合計特殊出生率	1.08(令和3年)	1.44(令和13年)
20~29歳の道外への転超過数	2,135人(令和4年)	0人(令和13年)